

## 新刊紹介

## 特別報告書 No. 24

## 「わが国における製鉄技術の進歩」刊行のお知らせ

(共同研究会製鉄部会第 50 回会議記念出版)

本書は、製鉄部会が昭和 30 年 5 月第 1 回会議を開催し、本年 5 月 50 回目を迎えるに当り、第 50 回会議を記念し発刊されたものである。

わが国の鉄鋼技術は、欧米先進国からの技術の導入、即ち安政 4 年 (1857) 釜石鉄山における大島高任の洋式炉の導入に端を発するのでありますが、その後百有余年、幾多の先駆的技術者の血のにじむ努力が実を結び、現在、世界に冠たる鉄鋼技術を完成いたしました。本来はこの百有余年に亘る製鉄部門の技術の発展を写真、図、表を中心にまとめたものであります。

1. 書名 「わが国における製鉄技術の進歩」 B 5 判, 320 頁, 上製本
2. 価格 会員 4,200 円 (送料 200 円)  
非会員 5,500 円 (送料 200 円)
3. 申込方法 郵便振替 (東京 7-193 番), 銀行振込, 現金で前納して下さい。
4. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021
5. 内容 第 1 編 製鉄技術発展の経過 第 2 編 原料事前処理技術発展の経過  
第 3 編 コークス製造技術の発展の経過 第 4 編 高炉技術発展の経過

## 書評

日本鉄鋼協会共同研究会製鉄部会では昭和 30 年 5 月に第 1 回会議が開催されて以来、本年は 50 回を数えることとなり、記念行事の一端としてコークス部会と共同で本書が刊行された。

本書はわが国製鉄技術の進歩発展を汲み取る目的で発刊されたもので、全 4 編 (314 頁) より成り、

- 第 1 編 わが国の製鉄技術の発展
- 第 2 編 わが国の原料事前処理技術の発展
- 第 3 編 コークス製造技術の発展
- 第 4 編 わが国の高炉技術の発展

の経過がのべられ、最後に引用文献リストを付しより詳細な検討への手引きとしている。

高炉技術は高炉の解体調査、モデル実験などを通じ、現場操業の絶えまない技術更新あるいは対症療法によりブラックボックスなどと悪口を言われながらも、高い水準を勝ち取ってきた経過が図表や貴重な写真をふんだんに盛り込んで、生々しくそれでいて簡潔に記述されており、編者の苦心の跡がうかがわれる。読み物としても興味ある資料であるが、製鉄技術の今後はますます厳しくなる社会的、経済的情勢の要求に従って、より高い水準への飛躍が迫られ、そしてそれに応じなければならない状況にありこの時に先輩諸氏の苦闘の跡をふり返ることは、「温故知新」の言葉のとおり、さらに新しいことを学ぶ礎石となるものである。

製鉄部門にたずさわる研究者、技術者あるいはこれから学ぼうとする大学院生、学部学生が必読の書として推薦する次第である。

(東北大学選鉱製錬研究所所長 大谷正康)